

	一般的名称	報告の概要
391	マレイン酸フルボキサミン	高齢男性(65歳以上)の前向きコホート試験において、SSRI使用群では腰部の骨塩密度が低下することが示唆された。
392	マレイン酸フルボキサミン	高齢女性(平均年齢78.5歳)の前向きコホート試験において、SSRI使用群では腰部の骨塩密度が低下し、骨損失率が高まることが示唆された。
393	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	CD33陽性急性骨髄性白血病患者46例を対象とした併用療法後の低用量ゲムツズマブオゾガマイシン投与の前向き多施設共同試験において、肺出血により1例死亡した。
394	エポエチン α (遺伝子組換え)	集中治療室への入院後48~96時間が経過した内科患者、外科患者、外傷患者1460例を対象とした前向き無作為化プラセボ対照試験において、プラセボ投与群と比較して、エポエチンアルファ投与群では血栓イベントの発生率が有意に増加した。
395	ベンズプロマロン	初診時までに痛風発作が2回以上あった痛風患者350例を対象としたレトロスペクティブ調査において、特に尿酸降下剤投与開始後1~2ヵ月の間に痛風発作を起こすことが多かった。
396	アムホテリシンB	幼若ラットを用いた4週間反復静脈内投与毒性試験のための2週間投与予備試験において、大脳、小脳に出血性変化が認められた。
397	ヘパリンナトリウム	初期浸潤性治療を受けている中・高リスクの球性冠動脈症候群患者13819例を対象としたbivalirudin(BIV)、BIV+GP2b/3b阻害剤、ヘパリン+GP2b/3b阻害剤を無作為化したACUITY試験において、大出血が死亡率の予測因子となることが示唆された。
398	ケトコナゾール	ホスアンブレナビルとリトナビルにケトコナゾール経口剤を併用すると、ケトコナゾールのAUCが高まることが示唆された。
399	レボホリナートカルシウム	日本人の切除不能転移性結腸直腸癌患者32例を対象としてFOLFOX4の実行可能性を検討したプロスペクティブ研究において、1例が間質性肺炎を発現し、呼吸不全により死亡した。
400	ジクロフェナクナトリウム	癌への結腸切除の際、疼痛処理として使用されるモルヒネの投与量減量目的でジクロフェナクを使用すると、吻合部離開が起こった。
401	ラベプラゾールナトリウム	プロトンポンプ阻害剤の使用により、Clostridium difficile関連下痢症の発症頻度が高まることが示唆された。
402	アルテプララーゼ(遺伝子組換え)	遺伝子欠損中大脳動脈閉塞モデルマウスを用いた検討において、t-PA投与による頭蓋内出血増大はMMP-9よりPlgとMMP-3が重要な役割を果たしていることが示唆された。
403	アセトアミノフェン	非ステロイド性抗炎症剤(NSAIDs)アレルギーを早期発現(6歳未満)した群では、後期発現(6歳以降)群と比較してアセトアミノフェンに交差反応を示す割合が高いことが示唆された。
404	アルテプララーゼ(遺伝子組換え)	遺伝子欠損中大脳動脈閉塞モデルマウスを用いた検討において、t-PA投与による頭蓋内出血増大はマトリックスメタロプロテアーゼ(MMP)-9よりプラスミノゲンとMMP-3が重要な役割を果たしていることが示唆された。
405	アルテプララーゼ(遺伝子組換え)	中大脳動脈閉塞モデルラットにrt-PAを静脈内投与したところ、用量依存的に皮質と基底膜が傷害された。
406	エストラジオール	エストロゲン+プロゲステンの周期的併用療法を長期間行くと、子宮内膜癌発症リスクが高まることが示唆された。